「三菱のPHEV」が「走る蓄電池」「走る発電機」として活躍！

「100V AC電源(1500W)」から給電

2022年12月18日、新潟県内では次々と強い寒気が流れ込み、記録的な大雪を観測。特に佐渡市では、雪による倒木などの影響で長期に亘る停電が発生しました。佐渡市は、東日本三菱自動車販売(以下、東日本三菱)及び池野自動車整備工場(以下、池野自動車)、三菱自動車と、2022年10月に締結した災害時協力協定に基づき、電動車の支援を要請。停電が長期化していた松ヶ崎連絡所と岩首診療所(ともに同市)を含め、計3台のPHEVを貸与しました。

DENDO コミュニティサポートプログラム

佐渡市で大雪の中大規模停電が発生、「三菱のPHEV」が出動。

診療所で活躍したエクリプス クロスPHEV

2022年12月18日から20日にかけ、佐渡市では最大5000戸に上る大規模な停電が発生。佐渡市防災課の仲川課長は、すぐに三菱自動車との協定が頭に浮かびましたが、当初は支援要請にためらいもあったそう。「すぐに解消すると思っていたのに、なかなか復旧しない。そんな中、市長からの『三菱にPHEVの貸与要請をしてはどうか』の一声が後押しとなりました」。

三菱自動車に支援要請があったのは20日夕刻、台数は3台。すぐに市内の池野自動車に配備されていたエクリプス クロスPHEV1台を貸与しました。あとの2台は新潟港からカーフェリーで運ぶ必要がありましたが、当時は乗り場に近い新潟市内も大雪により立ち往生が相次ぎ、移動もままならない状況。当日の派遣は諦め、次の日に再チャレンジすることにしました。

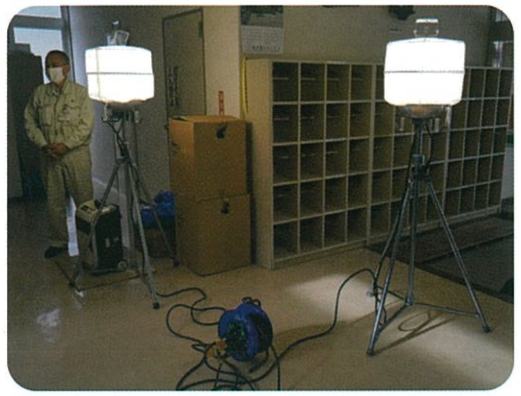
翌朝、車の搬出のため店舗に向かった東日本三菱新潟東店の長谷川店長と新潟西店の近(ちか)店長は、積もった雪の量に驚きます。「爆弾低気圧の威力もさることながら、前夜、除雪車が道路の脇に雪を寄せたまま凍ったために、『氷の壁』となって出入り口を塞いでいたのです。スコップや鍬(くわ)を持ち出し、2人で汗だくになりながらその『氷の壁』を砕き、何とかフェリーに乗せました。」
(長谷川店長、近店長)

三菱の4WDが、災害時にも役に立つ。

PHEVの災害時の強みは、電源としてはもちろんのこと、その走りにもあったと言います。市役所と診療所をPHEVで往復した松井さんは「4WD性能の高さに驚いた」と話します。「往復路は高低差のあるくねくねした山道。しかも、倒木により除雪車が通れず雪は積もったままでした。そのようなところでも、PHEVは全く不安がない。普段は別の4WD車に乗っていますが、全く別物の感覚。さすがは四駆の三菱、と感動しました。」

災害時の荒れた路面、雪道でも安心して走ることのできる4WD性能と、電源としての使い勝手の良さ。災害にも強い「三菱のPHEV」の力が発揮され、佐渡市の電源としてお役立ていただけました。

今後も三菱自動車は、「DENDOコミュニティサポートプログラム」を通じ、暮らしの安心・安全を守る取り組みを行ってまいります。



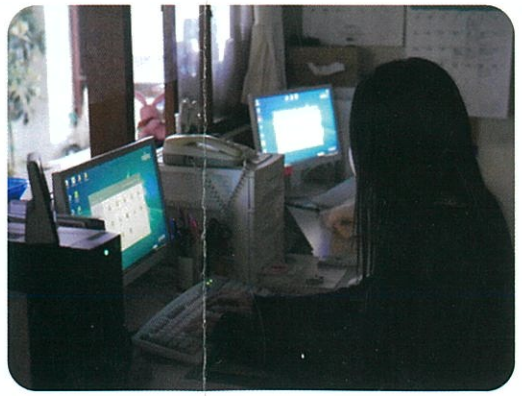
松ヶ崎連絡所では投光器に電気を供給

「三菱のPHEV」が、心の明かりを灯す電源に。

佐渡市に渡ったエクリプス クロスPHEVは、1台が松ヶ崎連絡所へ、もう1台は岩首診療所へ派遣されます。市の各施設には、コンセント不要のだるまストーブが配備されており、停電中も暖は取れたようですが、岩首診療所では、カルテのデータや会計システムの入ったパソコンが使えないため、診療所として機能できず困っていたそうです。診療所職員の山田さん、細矢さんは「最悪、休診も想定したのですが、PHEVのお陰で滞りなく診療ができ、本当に助かりました」と笑顔で話しました。

松ヶ崎連絡所では投光器に接続。「明かりがつくと、自然と住民の皆さんの表情も明るくなりました。『ここなら電気がもらえる』と、少し離れたエリアから携帯の充電に立ち寄る方もいましたよ」と、職員の川上さんは語ります。

当時、松ヶ崎連絡所にPHEVを届けるよう指示した、畑野行政サービスセンター長の金子さんは、電源としての価値を強く感じたそう。「避難所には小型ガソリン発電機がありましたが、音がうるさくて、特に夜間は眠れない程でした。ガスボンベで動く発電機もありましたが、2時間おきにボンベの入替が必要で、使い勝手が悪く、これも使えない。PHEVは車のコンセントに挿すだけと使い方も簡単で、音もほとんどない。本当にすごいと思いました。」



停電の中、カルテ閲覧や会計を行うためのPCに給電

災害にも強い「三菱のPHEV」はこちら

OUTLANDER PHEV

ECLIPSE CROSS PHEV

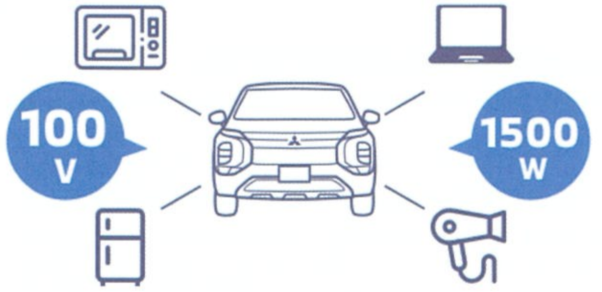
●本リーフレットは、2023年2月現在の情報に基づいて作成しています。車両の装備仕様などは予告なく変更する場合があります。

三菱のPHEVが「くらしの安心・安全を守るクルマ」として各地で活躍しています。

「三菱のPHEV」災害時の4つの強み

三菱のPHEVは、その性能の高さが、災害による停電時にも大いに発揮されます。

1:スイッチ1つで給電、1500Wの大容量※1

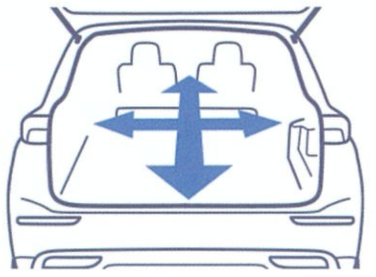


車内にコンセントを装備、スイッチ1つの簡単操作で電気製品を使用可能。

2:「Vehicle to Home(V2H)」で、家全体に電力供給

V2H機器と接続し、PHEVの電力を建物全体に供給。ガソリン満タンで最大約12日分※2の電力を確保することができます。

3:広いラゲッジスペース



荷室は十分な広さがあり、緊急時にさまざまな物資を運搬する車両としても活躍します※3

4:悪路でも安心の4WD性能

カーブの多い山道や、荒れた道路を走る際もPHEVの強い足回りが安心感を与えてくれます。

特務機関NERVも、災害対策車として「三菱のPHEV」を採用。

防災アプリを運営する特務機関NERV※(ゲヒルン株式会社)と三菱自動車は、災害による長期停電や通信網途絶に備え、「防災情報配信サービスの継続」と「近隣自治体への支援」を目的とした特務機関NERV災害対策車両を共同製作しました。現在は、参号機、四号機の計二台の災害対策車が稼働し、被災各地へ出動、災害対策本部や避難所の支援活動を行っています。

詳しくはこちら https://www.mitsubishi-motors.co.jp/carlife/phev/NERV/

※「特務機関NERV」の名称およびロゴマークは、『エヴァンゲリオン』シリーズの著作権者である株式会社カラーと、同作の権利を管理する株式会社グラウンドワークス:の許諾に基づき使用しています。

提供サービス	①電源供給・充電サービス ②安否・避難所情報の通信サービス(避難所の避難者・運営者向け)

「DENDOコミュニティサポートプログラム」で全国の自治体と協定を締結

災害による停電発生時に改めて自治体と必要事項を確認する時間的ロスをなくし、給電などに活用できる『アウトランダーPHEV』などの電動車を速やかに被災地・避難所などへ提供できる体制づくりを、系列販売会社と共に推進しています。

このたび、目標としていた「47都道府県の自治体との災害時協力協定締結」を達成。今後も全国の自治体と支援の輪を広げていく予定です。

自治体のニーズに応じ、「三菱のPHEV」の活躍の場が拡大。

●人工呼吸器専用"外部バッテリー"への給電検証(川崎市)

川崎市より「医療機器使用者の停電対策としてPHEVを活用し、人工呼吸器の専用外部バッテリーへの充電検証を行いたい」との要望を受け、検証に参画。国立病院機構箱根病院の医療監修のもと、PHEVから給電、バッテリーの安定作動を確認しました。
医療関係者や医療的ケア児者※からの反響が大きく、国土交通省による電動車派遣実証では医療的ケア児者との意見交換を行うなど、「医療機器に直接給電しなくとも、停電時の安心につながる」と期待の声が上がっています。

※心身の機能に障害があり、呼吸や栄養摂取、排泄などの際に、医療機器やケアを必要とする方のこと

●災害停電時マンホールポンプ起動支援システム開発

台風や落雷などの自然災害によって電源を喪失したマンホールポンプを迅速に起動させるシステムを開発するため、日本下水道新技術機構や荏原実業、三水コンサルタントとともに共同研究に参加しました。
脱炭素社会の実現に向け、平常時に「太陽光発電」等により充電した「可搬式蓄電池」や「電動車両」を、災害停電時に電源供給源として用い、「新動力制御盤」を介して停止したポンプを起動させる新しいタイプのマンホールポンプシステムとなります。

「電動 DRIVE STATION」は、いざという時の避難場所に。

「電動 DRIVE STATION」は、クルマの電動化が進むいま、三菱自動車が考える新たなコンセプトを備えた店舗です。
電動DRIVE STATIONには、太陽光発電システムとV2H機器が設置されており、太陽光発電による電動車両への充電と、電動車両から店舗への電力供給を可能としています。

災害時に停電が発生した際には、店舗が停電することなく、充電器やフリーWi-Fiがお使いいただけるなど、緊急時の避難場所としてもご活用いただくことができます。

詳しくはWebで。 https://www.mitsubishi-motors.co.jp/special/dendo

※1 ●消費電力が1500Wを超えると、給電停止または出力低下となる場合があります。●ACコンセントに、たこ足配線はしないでください。●定格消費電力1500W以下でも使用できない機器があります。●AC電源使用時は駆動用バッテリーの残量が少なくなると、自動的にエンジンが始動し充電をおこないます。車両の停止中にエンジンが始動した場合、アイドリングストップに関する条例に抵触することがありますので、十分にご注意ください。
●使用する電気製品に付属の取扱説明書や、製品に記載されている注意事項をご覧の上でご使用ください。
※2 ●満充電の状態で一般家庭の最大約1日分、バッテリーチャージモードによるエンジンでの発電も組み合わせればガソリン満タンで、アウトランダーPHEVは最大約12日分、エクリプス クロスPHEVは最大約10日分の電力量を供給することが可能です。
●供給可能電力量は当社試算による(一般家庭での一日当たりの使用電力量を約10kWh/日として算出、V2H機器等の変換効率は含みません)。●住宅との接続にはV2H機器が必要です。また、V2H機器に接続している場合、エンジン始動による発電はできません。V2H機器については、V2H機器取扱メーカーまたは営業スタッフにおたずねください。

MITSUBISHI MOTORS
Drive your Ambition